

Ⅱ-64 仙台市近郊の海岸におけるサーファーの利用 および環境意識に関するアンケート調査

東北工業大学 学生員 ○伊藤 昭広
東北工業大学 正 員 高橋 敏彦

1. はじめに

1999年に海岸法が改正され、それまで「防護」のみが目的であったが、「環境」と「利用」が加わり、目的が3つとなった。しかし、海岸環境や利用に関する研究例は少なく、それほど検討されていない。そこで本研究は、海岸整備の一助となる基礎データの蒐集を目的として、サーファーを対象に、仙台市近郊の海岸におけるサーファーの利用および環境意識に関するアンケート調査を行った。

2. 調査内容

2-1. 調査場所

仙台市近郊の主なサーフスポットは、千葉らりの研究で図-1に示すように通称仙台新港（仙台新港南防波堤南側）、菖蒲田（菖蒲田海岸）、荒浜河口（阿武隈川河口右岸側）、荒浜プール（阿武隈川河口右岸側約200～400m南でプールの裏）の4地点であることが分かっている。荒浜河口と荒浜プールの2地点は300m程度の距離のため、以後荒浜として1地点と考える。また、仙台新港が他のサーフスポットに比べ、圧倒的に利用されていることも明らかとなっている。これらのことより仙台新港を中心として、菖蒲田、荒浜の3地点をアンケート調査対象とした。

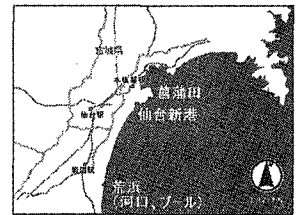


図-1 仙台市近郊のサーフスポット

2-2 調査項目および調査日

調査項目は、人物像（性別、年齢、職業）、サーフィン歴、使用ボード、移動手段、所要時間、利用回数（一週間あたりの回数、曜日、曜日選定理由）、利用開始時間、事前情報源、好む波のサイズ、好む碎波形式、サーフィンをやっている理由、主に行くサーフスポット（場所、場所選定理由）、海岸環境に対する興味の有無、海岸環境の変化、要望、等である。調査日は、平成17年8月6日～24日までの7日間を仙台新港で行ない、他の2地点では8月20日～24日までの3日間である。調査方法は、各サーフスポットの駐車場にてサーファーに記入してもらう、またはヒヤリングによる調査である。

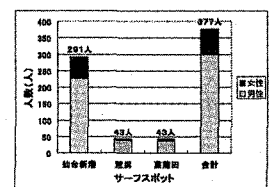


図-2 アンケート集計人数

3. 調査結果及び考察

3-1 アンケート集計人数

図-2は、横軸にサーフスポット、縦軸に人数をとり、男女別にアンケート集計人数を図示したものである。3地点合計人数は377人で、男性79%、女性21%である。また、サーフスポット別では仙台新港が291名の78%、菖蒲田、荒浜とも43名で各11%でありアンケート集計人数の約8割が仙台新港である。図-3はサーファーの年齢割合を図示したものである。図より、多い順に20代の47%、30代の42%となっており、20代と30代で約9割を占めている。それに対し10代は2%と少なく、この結果は別項目の移動手段で99%が車という結果がでており、車の免許が取得できる年齢を考えると、10代でサーフィンへ行くのは難しいと思われる。

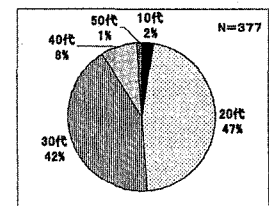


図-3 年齢割合

図-4 は職業別割合を図示したものである。最も多いのが会社員で 68%、続いてその他の 21%である。その他の内訳は、公務員が 11 人、他にフリーター 9 人、主婦 3 人、上記以外の職業が各 1 名ずつの 8 人、無回答 42 人となっている。学生は意外と少なく 4%であり、サーフィンをしているほとんどの人は社会人であると考えられる。これらの事から、仙台市近郊のサーファーは、20、30 代の社会人男性が一番多いのではないかと考えられる。

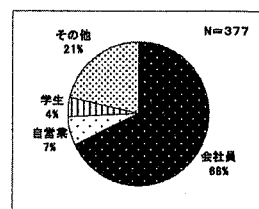


図-4 職業別割合

3-2 サーフィン歴

図-5 はサーフィン歴を大きく 5 段階に分類し、その割合を図示したものである。回答数は 371 人でもっとも多いのが 5~10 年未満の 27%、10 年以上がほぼ同程度の 26%となっている。また、4~5 年未満のサーフィン歴の人でも 17%となっており 4 年以上のサーフィン歴を持っている人が全体の 70%を占めている。これらのことを考えると、サーフィンは長年継続して楽しむことができるスポーツの 1 つと思われる。

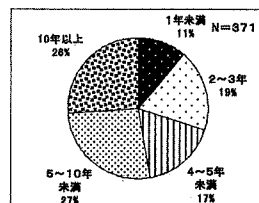


図-5 サーフィン歴

3-3 海岸環境についての意識

図-6 は海岸環境の興味の有無を 4 段階に分類し、その割合を図示したものである。多少あるも含めて興味があると回答した合計が、93%と大きく占めており、サーファーのほとんどの人が海岸環境に興味を持っている。図-7 は、チェックと記述の両回答方式で、海岸の環境はここ数年で変化しましたか？（複数回答可）に対する結果である。図より、多い順にサーファーの人口増加が 31%、ごみ増加が 29%、波の悪化が 16%、水質が悪くなったが 14%となっている。その他の中には、ごみが減った、海がきれいになった、波の良化などプラス回答した数はごく少数で、サーファーのほとんどの人が海岸環境が悪化していると感じている。

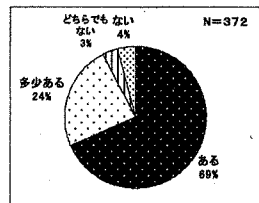


図-6 海岸環境の興味の有無

3-4 要望

図-8 は、サーフスポットに対しての要望を、記述式で質問した回答結果の割合を図示したものである。図より、多い順からトイレの設置 38%、シャワーの設置 15%、水道の設置 9%、駐車場整備 6%等利用に対しての要望が全体の約 7 割を占めている。一方、海岸環境に対しては、テトラ等の削減が 9%となっている他は、その他の中にサーフスポットの保護、リーフにして欲しい等の要望が少数ある。海岸環境と利用の他は、サーファーのマナー等の要望となっている。

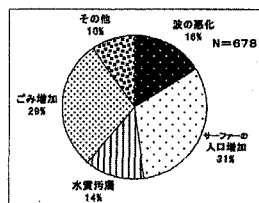


図-7 海岸環境の変化

4. おわりに

サーファーを対象にアンケート調査による仙台市近郊におけるサーファーの利用及び環境意識に関する検討を行った。その結果、サーファーの年齢割合やサーフィン歴等の利用者像や、さらに近年の海岸環境に対する感じ方やサーフスポットへの要望等がかなり明らかになった。

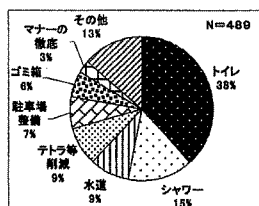


図-8 要望

<参考文献>

- 千葉透雄, 高橋敏彦: 仙台市近郊の海岸におけるサーファーの動向調査, 土木学会第 60 回年次学術講演会, pp. 383-384, 2005.